

保育園におけるリトミック活動の実践と1、2 歳児の模倣行動の発達的变化の検討

著者	高牧 恵里, 今福 理博
雑誌名	武蔵野教育學論集
号	10
ページ	77-84
発行年	2021-03-10
URL	http://id.nii.ac.jp/1419/00001389/

保育園におけるリトミック活動の実践と 1、2歳児の模倣行動の発達的变化の検討

A Practice of Rhythmic Activities in Nursery Schools and Examination of Developmental Changes in Imitation Behavior of Children Aged 1 and 2

高 牧 恵 里^{*}
TAKAMAKI Eri
今 福 理 博^{*}
IMAFUKU Masahiro

はじめに

ヒトの発達を踏まえて保育・教育することは、幼児教育を実践する上で欠かせない。そのためには、実践の場での子どもの発達や行動を検証し、エビデンスに基づく教育内容を構築することが必要であろう。

2017年度に改定された、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領においては、幼児期の終わりまでに「10の姿」を育むことが方向目標として提唱されている（厚生労働省，2017；文部科学省，2017；文部科学省・厚生労働省，2017）。かつての幼児教育は就学準備を目的とする内容が多かった。しかし現在は、日本においても「社会における子育て（ソーシャルペダゴジー）」という生涯教育の基礎作りを目的とした幼児教育に立ち返り、乳幼児期の遊びを通して、子どもを主体的、共同的な学びに導くという考えが主流になっている。保育者は子どもたちの発達段階や個性・特性を把握しつつ、個々の子どもたちに合った援助が求められる。

1. 音楽とリズムについて

私たちは旧石器時代から音楽と共に生活をしてきた。例えば、ドイツ南西部のホーレ・フェルスの遺跡では、3万5000年以上前の動物の牙や骨で作られたフルートが発掘されている（Conard, Malina, & Munzel, 2009）。

人間は、胎児期から聴覚が発達し始め、妊娠30週のころから音声を聞き分けができる。つまり、赤ちゃんは、生まれながらにして聴覚能力を獲得していることになる。ダーウィンの『人間の由来』では、音楽は動物の求愛などの種の生存に関わり、人間のコミュニケーションの媒体である言語の起源であると記されている（Darwin, 1871）。個体発生的・系統発生的な観点から考えて、音楽がコミュニケーションを促進するものとして子どもの成長を助けられていると考えられる。

また、音楽の3要素の一つである「リズム」は、色々なところに存在するものであるとされており、地球の自転にも関与しているとしている（小西・志村・今川・酒井，2016）。リズムは私たちの身

* 武蔵野大学教育学部

体にも内在しており、リズム同士が同期することがわかっている。例えば、音楽の周期性のある拍子やリズムを整えるために使用するメトロノームも同期することがある。メトロノーム 2 台を同じタイミングで鳴らし始めると2つのリズムはずれていき、しばらくするとまた合うようになる。このように2つのリズムは同期と非同期を繰り返すのである。

同期現象は人間同士でも起こる。演奏会後の拍手が最初は同期していなくても、徐々に同期してくる。この中で、他者との一体感や共感する気持ちの高揚にもつながる。音楽は、リズムを介して他者と身体・心を通わせる役割を持つ。

2. 子どもへの音楽活動

エミール・ジャック＝ダルクローズは、「リトミック」という教育システムを確立し、世界中に広めたリズムの教育家である。彼のリトミック論文集『リズムと音楽と教育』の序章に、「和声を学ぶ学習の前に聴く力を伸ばす訓練をした時に、幼い子どもたちは、きわめて自発的に聴く力が現れ、ごく自然に分析的理解につながっていくことに気づいた。すべての新しい感覚が子どもの心をとらえ、喜びに満ちた好奇心が子どもを生き生きさせる時期に迅速に発達する。」と記している（エミール・ジャック＝ダルクローズ, 2003）。

先述したように音楽の聴き分けは胎児期から有しており、音の高さ（特に高い周波数の音）やリズムを聞き取る力は、生後 6 か月ほどで備わる。したがって、音楽やリズムを用いるリトミック活動によって、幼いころより聴く力を育てることが可能であると考えられる。加えて、音楽を身体全体で受け止め、リズムを感じとる力を育てることで、遊び歌や子守唄に対する好みを形成し、音楽を記憶して耳を傾けることにもつながる（小西ら, 2016）。

3. かかわり合いの中からの学びと育ち

子どもと養育者などの身近にいる人との間に取られるコミュニケーションは音楽的であると、発達心理学者のマロックとトレヴァーセンは一連の研究から提唱している。普段の生活の中で、子どもたちは身近にいる人と行動を同期させることを通じて、コミュニケーションする中で気持ちや情報を共有する。

また、子どもは他者とのかかわり合いの中で、模倣を通じて道具の使い方や言語などを学ぶ。さらに、模倣は他者との親和性を向上させる役割をもつ（Over & Carpenter, 2013）。リトミック活動では、音楽を身体で感じて表現すると共に、子ども同士、又は子どもと保育者の間で模倣を通じたコミュニケーションが行われている可能性がある。リトミック活動を通じた模倣によるコミュニケーションは、リズムを聴く力を育むと共に、それを楽しみ、他者の気持ちに気づく経験になると考えられる。

4. 本論文の目的と方法

ここまで述べてきたことから、子どもが同じ音楽（リズム）で行うリトミック活動は、様々な能力の発達に関与することが想定される。現在の幼児教育では、リトミック活動を取り入れている保育所や幼稚園もある一方で、リトミック活動は子どもの発達にどのような影響を及ぼすのかについては明らかでない部分が多い。

このような背景から、本論文ではリトミック活動を実践し、リトミック活動が子どもたちの心身の発達に及ぼす影響について、リトミック活動中の子どもたちの様子を観察して分析した事例を報告した。具体的には、保育園で1, 2歳児を対象に実践したリトミック活動から、子どもたちが音楽的要素をどのように感じて表現しているか、そして心身の発達へどのように影響があるかを、模倣の分析を通して検討した。最後に、リトミック活動の実践を子どもの発達の観点から考察し、幼児教育におけるリトミック活動の役割について再考した。

武蔵野大学キャンパス内にある慈光保育園の1歳児6名と2歳児6名の併せて12名を対象に、月1回(各回30分)のリトミック活動を行ない、園児たちの活動の様子をビデオカメラにより記録し検討した。さらに、保育園の先生、本学科の教員との活動の振り返りを行なうことにより、園児たちのリトミック活動について検討した。

5. 慈光保育園でのリトミック活動の報告

2019年7月より、慈光保育園の園児に月1回のリズム遊びの指導に赴いて指導した実践について、実施日、リトミック活動内容、子どもたちの様子と保育者の動きの観点から報告する(表1)。

表1. リトミック活動内容と子ども達の様子及び保育者の動き

実施日	リトミック内容	子どもたちの様子と保育者の動き
7月17日	① ごあいさつをする。 (○○ちゃん、おはよう)	初めての体験だったので、ごあいさつの時に少し照れくさそうな表情をしていた子どもがいた。
	② 手を使って、グーとパーができるかを 確認する。確認後、4拍子にのって動か す。	グーとパーの手の動きを先生と一緒に動かす。 チョキは難しそうだったため、いれなかった。
	③ 床にごろごろし、緊張と弛緩の動きを 体験する。	虫がひっくり返った時のようにバタバタしたり、パターンと力を抜いた動きをする。
	④ リズムに合わせてジャンプする。	保育室内の上に吊るしてある子どもたちの製作物に向かってジャンプする。
	⑤ お顔で表情を作る (笑う、泣く、怒るなど) 怒った顔で「にらめっこしましょう」に取り 組む。	子どもたちの様々な表情が見られた。にらめっこは、先生と子どもで取り組む場合が多 かった。
	⑥ 「きらきらぼし」の音楽に合わせて動 く。	高い音域、低い音域での「きらきらぼし」の速度の変化、短調に弾き替えた時の身体の時 刻の変化をみる。
8月28日	① ごあいさつ (○○ちゃん、おはよう)	子どもたちと一人一人とあいさつする。
	② 手のグーパー遊び (リズムに合わせてながら)	グーとパーの手の動きを先生と一緒に動かす。 チョキは難しそうだったため、いれなかった。
	③ 「かえるの歌」を歌う。	グーとパーの動きからチョキができる2歳児さんが「カエル」ができるよ！と見せてくれ た。
	④ 床にごろごろ (緊張と弛緩)	体を緊張させたり、緩めたりする動きを床に寝転んで動く。
	⑤ 顔で表情を作る (笑う、泣く、怒るなど)	喜怒哀楽の表情を各々の顔で表現していた。
	⑥ トンボの折り紙を渡して、「トンボの めがね」と歌いながらトンボを飛ばす。	園児さんは折り紙のトンボを大変気に入った。前回渡したものはお家に持ち帰ったため、 新たに持参した。先生がお持ちだったトンボは、朝の会に使用しており、トンボはお馴染 みのものだった。子どもたちは、トンボになって保育室のどこかに止まろうと飛び回って いた。

9月25日	① ごあいさつ (○○ちゃん、おはよう)	子どもたちと一人一人とあいさつする。
	② 手のグーパー遊び (4拍子に合わせてながら)	グーとパーの手の動きを先生と一緒に動かす。
	③ 床にごろごろ(緊張と弛緩)	体を緊張させたり、緩めたりする動きを床に寝転んで動く。
	④ 「きらきら星」に合わせて動く	高い音域、低い音域での「きらきらぼし」の速度の変化、短調に弾き替えた時の身体の動きの変化をみる。
	⑤ わらべうた「とんぼとんぼこのゆびとまれ」からまつぼっくりを登場させ、「まつぼっくり」を歌って終了する。持参したまつぼっくりに大変興味をもった。	わらべうたからまつぼっくりを登場させ、トンボを止まらせるようにした。実物のまつぼっくりを使いながら、「まつぼっくり」を歌って終了する。持参したまつぼっくりに大変興味をもった。
10月28日	① ごあいさつ (おはよう、○○ちゃん)	最初にごあいさつしたお友達が照れたポーズをしたため、連鎖反応で皆照れてしまい、一人一人のごあいさつが成立しなかった。
	② 手のグーパー遊び	グーの手とパーの手を使いながら、4分音符で拍子に合わせて動かす。
	③ 床にごろごろ(緊張と弛緩)	体を緊張させたり、緩めたりする動きを床に寝転んで動く。
	④ きらきら星(高い音、低い音で速度を変える。短調)	高い音域、低い音域での「きらきらぼし」の速度の変化、短調に弾き替えをした時の身体の動きの変化をみる。
	⑤ トンボのわらべうたを歌いながら飛ばす。	お気に入りのトンボの折り紙を手で動かしながら飛ばす。
	⑥ 「とんぼのめがね」を歌ってとんぼと一緒に動き回る。	「とんぼのめがね」と使って、歌いながら動き回る。
	⑦ 持参した学内のどんぐりを見せる。	次回子どもたちが集めたどんぐりでシェーカーを作ることにした。どんぐりを見たときにお帽子がなかったものだったので、「お帽子がない」と話していた。観察力が鋭い。
11月14日	① ごあいさつ (おはよう、○○ちゃん)	子どもたちと一人一人とあいさつする。
	② 指のグーパー遊び (リズムに合わせてながら)	グーの手とパーの手を使いながら、4分音符で拍子に合わせて動かす。
	③ シェーカー作り	前回見せたどんぐりと子どもたちの集めたどんぐりを小さいキャップ付きの入れ物に入れるシェーカー作りをした。小さいどんぐりを自分の手で小さなキャップ付きの入れ物に移し替えており、指先がとても上手に動いていた。入れ物いっぱいに入れるとシャカシャカと音がしないのに気付いた子どもは、詰めたどんぐりをシャカシャカと音がする量までに減らし、確かめていた。
	④ 「どんぐりころころ」を歌いながら、リズムに合わせてシャカシャカと振る。	シャカシャカと振ってリズムをとるのは、気に入ったようだ。
	⑤ ネズミの折り紙を持参し、「フレールジャック」を歌い、ネズミとチュッチュと大騒ぎするようにした。	チュッチュとネズミさん同士が騒ぐ様子を先生やお友達のねずみの折り紙を使って触れ合っていた。
		(途中で園児から「きらきら星」のリクエストがあったが、時間切れでできなかった。今回は必ず取り入れることとする。)
	⑥ 「まつぼっくり」を歌う。	締めくくりにまつぼっくりを歌い、「コロコロ」のときの動きがくるくる回るしぐさをした。
12月11日	① ごあいさつ (○○ちゃん、おはよう)	子どもたちと一人一人とあいさつする。 徐々に照れるお子さんが減ってきた。
	② 手のグーパー遊び (リズムに合わせてながら)	手の動きを使って、グーとパーをリズムに乗せて、動かしてみた。1歳児さんでもチョキの形ができるようになったお子さんがでてきた。
	③ 床にごろごろ(緊張と弛緩)	床にごろごろする。虫がひっくり返った時のように仰向けにバタバタしたり、パターンと手足を下ろしたりする。

保育園におけるリトミック活動の実践と1, 2歳児の模倣行動の発達的変化の検討 (高牧・今福)

	④ 手をたたきましょう	「手をたたきましょう」の歌を歌いながら、「タンタンタン」のリズムを手でたたく。
	⑤ きらきら星 (高い音、低い音で速度を変える。短調)	高い音域、低い音域での「きらきらぼし」、速度の変化、短調に弾き替え、身体の動きの変化をみる。
	⑥ 「一匹ののねずみ」の歌を歌いながら、チュッチュチュとリズムカルにネズミと遊ぶ。	ネズミの折り紙をたくさん持参し、一人に一匹ずつ行き渡るようにした。「一匹ののねずみ」の歌を歌いながら、チュッチュチュとリズムカルにネズミと遊ぶ。お友達や先生とコミュニケーションをとる姿も見られた。
1月15日	① ごあいさつ (〇ちゃん、おはよう)	7回目になり、ごあいさつも照れるお子さんもいたが、だいごあいさつのリズムにのってあいさつしてくれるようになった。
	② 手のグーパー遊び (リズムに合わせてながら)	手の動きを使って、グーとパーをリズムに乗せて、動かしてみた。
	③ 床にごろごろ (緊張と弛緩)	体を緊張させたり、緩めたりする動きを床に寝転んで動く。
	④ 手をたたきましょう (手で「タンタンタン、、」)	「手をたたきましょう」の歌を歌いながら、「タンタンタン」のリズムを手でたたく。
	⑤ きらきら星	高い音域、低い音域での「きらきらぼし」、速度の変化、短調に弾き替え、身体の動きの変化をみる。
	⑥ わらべ歌「おちたおちた」	「おちたおちた」のわらべうたで遊ぶ。リンゴ、かみなり等、ポーズをとる。
	⑦ 電車ごっこ	みんなで電車のようにつながってシュシュポポと前進したり、2拍ずつで後ろ向きにさがる動きをする。先生と一緒に取り組むと、怖がらず、後退する動きをすることができた。
	⑧ 「どんぐりころころ」	「どんぐりころころ」を歌って終わった。
2月26日	① ごあいさつ (〇ちゃん、おはよう)	8回目になり、ごあいさつも照れるお子さんもいたが、だいごあいさつのリズムにのってあいさつしてくれる園児が増えてきた。
	② 手のグーパー遊び (リズムに合わせてながら)	手の動きを使って、グーとパーをリズムに乗せて、動かしてみた。チョキにも挑戦してもらった。リズムの組み合わせも少し増やした。
	③ 床にごろごろ (緊張と弛緩)	体を緊張させたり、緩めたりする動きを床に寝転んで動く。
	④ 手をたたきましょう (手で「タンタンタン」)	「手をたたきましょう」の歌を歌いながら、「タンタンタン」のリズムを手でたたく。
	⑤ 「にらめっこ」	「だるまさん、にらめっこ」を使って、怒った顔、泣いた顔、笑った顔に挑戦する。
	⑥ わらべ歌「おちたおちた」	「おちたおちた」のわらべうたで遊ぶ。リンゴ、かみなり等、ポーズをとる。「とんだとんだ」に替えて、ちょうちょう、トンボ、飛行機に挑戦する。
	⑦ 電車ごっこ	みんなで電車のようにつながってシュシュポポと前進したり、2拍ずつで後ろ向きにさがる動きをする。先生と一緒に取り組むと、怖がらず、後退する動きをすることができた。
	⑧ 「一匹の野ネズミ」	手遊びで「チュッチュ、チュッチュ」と大騒ぎする様子が見られた。
	⑨ きらきら星 (高い音、低い音で速度を変える。短調)	高い音域、低い音域での「きらきらぼし」、速度の変化、短調に弾き替え、身体の動きの変化をみる。

6. リトミック活動から見る子どもの変化の事例

リトミック活動をしている1, 2歳児の園児の反応の変化は、以下のとおりである。

- ①最初の「ごあいさつ」で、人見知りする園児が多かったが、元気にごあいさつする園児がいると次の園児がつかれて元気な返事をすることもあった。この年代のお子さんは、人見知りはあっても、わざと返事をしない等の大人びた行動は少ないと思われる。
- ②手のグーとパーの動きは、1, 2歳児さんは拍子に乗って動かすことができた。4分の4拍子で、「●、●、●、●」等のリズムにも合わせて動かすことができた。チョキは1歳児さんには難しかった

たが、2月くらいになるとチョキができるようになった。チョキができると両手で「かたつむり」を形作ることができるようになる。

- ③「床にごろごろ」は、「筋肉の緊張と弛緩」により、音楽の特徴を感じることに気づく動きである。虫になったつもりで、バタバタ（緊張）したり、パターンと力を抜いたり（弛緩）することが強弱やテンポの変化にも気づく一つの要素になる。園児は虫のつもりで動いて、徐々に身体の緊張と弛緩ができるようになってきた。
- ④「手をたたきましょう」や「むすんでひらいて」は、日頃親しんでいる歌のため、リズムも身につけているようで、すぐに手でリズムを感じとることができた。
- ⑤園児の顔の表情を表出してもらうために、「にらめっこ」をしたり、「手をたたきましょう」の歌の中で、「怒る顔」、「泣いた顔」、「悲しい顔」、「笑った顔」を演じてもらった。上手にできたと思った園児は、そばに来て見せてくれることがあった。
- ⑥「わらべうた」をとところどころに入れたが、歩いたり走ったりなどの動き回った後に入れると、園児は気持ちも落ち着き、わらべうたをよく聴いていた。「一匹の野ネズミ」の手遊びにおいて、ねずみの折り紙を使いながら、ねずみ同士で仲良くする様子を他の園児や先生と一緒に表現していた。
- ⑦「電車ごっこ」で後ろに下がる動きをする場面では、先生方と子どもがつながり、一緒に前進や後退する動きを感じ取っている様子であった。これは、模倣からの学びがあったと考えられる。
- ⑧「きらきらぼし」は園児が慣れ親しんでいる曲のため、高い音に変えて速くピアノを弾く、又は低い音でどっしりと弾くと、リズムに合わせて歩みを変化させてリズムを感じ取るような動きをしていた。「きらきら光る…」という歌詞のため、両手できらきら光る動きを見せることもあった。

このように、実践ではリトミックの様々な要素を取り込んだ内容を実践した。上述した事例から、同じ曲を使って繰り返すことで、園児はリズムに合わせた動きができるようになる姿を見せた。また、曲の強弱やテンポを変化させ、発展させることで、園児たちの表現をさらに引き出すことにつながる可能性があることもわかった。

7. リトミック活動における子どもの模倣の発達変化

ここでは、月1回行なったリトミック活動の観察から、模倣の発達の变化的結果（小林・今福、2020）を報告し、リトミック活動の発達への影響について検討した。本論文で注目した模倣行動にはヒトの発達において2つの役割があるとされる。1つ目は、言葉や物の使い方などを学習するための役割であり、2つ目は、模倣を通じて他者との親密性を促すという役割である。模倣は、私たちが社会生活を行う上で欠かせない社会的認知能力であるといえる（Over & Carpenter, 2012）。

小林・今福（2020）では、毎回のリトミック活動で実施した「きらきら星」で、子ども1人1人が保育者の動きを模倣しているかを、参加者が多かった5時点（2019年9月、10月、12月、2020年1月、2月）で分析し、縦断的に検討した。この5時点の活動場面の映像データを分析対象とし、動画の5秒間に保育者の動きの模倣が見られれば1点、見られなければ0点として、模

倣行動の割合を評価した。

リトミック活動における乳幼児の模倣の縦断的变化を分析した結果を図1に示す。分析の結果、5時点で模倣行動に違いがみられ、模倣行動は9月より2月で多く、11月より2月で多く、12月より2月で多くなった。このことから、リトミック活動を繰り返し行う中で、子どもたちはきらきら星の音楽に合わせた保育者の動きを観察し、自分の身体でその動きを模倣するようになることが明らかになった。

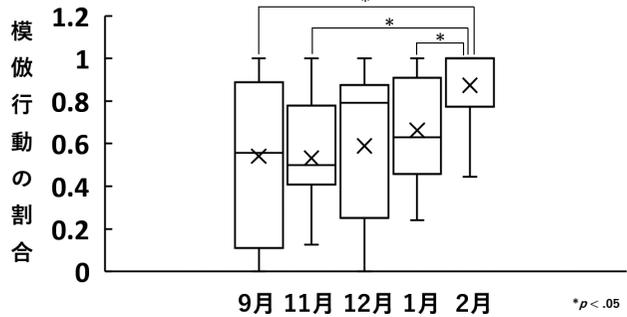


図1. 乳幼児における模倣行動の発達変化の結果
(小林・今福, 2020)

8. 今後の子どもたちへの音楽活動の課題

リトミックは、「表現したい」という気持ちを育てる音楽教育である。音楽によって自己実現を果たすことができ、表現したいという気持ちを満たすことができる。そして、成長の過程でセンスも身につけることができる。例えば、集中力や注意力、人とのコミュニケーション力、均衡、運動の整合、想像性、感受性、リラックスなどの感覚などである。

子どものリトミック活動に取り組む際には、その目標として次の3点の内容を理解し、取り組まなければならない（神原, 2013）。

- ①筋肉の緊張と弛緩でダイナミクス、テンポの違いを感じとること。
- ②動きの中でリズムを理解すること。
- ③からだを楽器として調和を味わうこと。

これらの内容を今までの活動の中に取り入れてきたが、まだまだ改善の余地がある。1回30分のリトミック活動の中で、3点の内容を実施し組み立てを見直すことも必要であると考え。同時に、ダイナミックに変化する活動の中で、子どもがいかにリズムを理解し、リズムに合わせて身体を動かしているかを発達の観点から理解することで、より良い教育実践につながると考える。

9. まとめ

本論文でのリトミック活動は、保育者と子どもが自然とかわる中で実践された事例報告であった。その結果、リトミック活動の中で子どもはリズムに合わせて動くようになり、他者を模倣するようになることがわかった。また、本実践では、保育士の先生と園児に対して制約を設けることはしなかった。先生方は普段の保育活動の中にリトミックを取り入れたいという思いがあり、子どもたちの活動を外から見守るのではなく、一緒に体験することを希望した。

本実践を通して、1, 2歳児において、日頃親しんでいる子どもの歌やわらべうたをリトミックの活動内容に取り入れることで、子どもの発達にも効果的である可能性が示唆された。さらに、日頃の保育活動の事例において、子どもからリトミック活動で行った歌を歌いたいという発言が

見られる等、子どもの主体的な姿が観察され、月を追うごとに保育の広がりが確認された。もう一つの事例では、リトミック活動への参加が少なかった園児が、リトミックの際に指導者が使うピアノに興味を持ち、活動中に一緒に鍵盤を触り、リズムよく鍵盤をたたく様子が見られた。この事例では、園児がリトミック活動の内容を身体で感じ、自分なりの方法で指導者に伝え、コミュニケーションにつなげている。園児にとっては、勇気のいる行動であったであろう。

保育・幼児教育において、リトミック活動を通じた子どもの成長・発達が見られることほど喜ばしいことはない。今後も、エビデンスに基づく効果検証により、子どもたちの成長・発達に寄り添える活動を進めていきたい。

謝辞

慈光保育園の先生方、園児の皆さんには、このリトミック活動にご参加いただき心より御礼申し上げます。

引用文献

- Conard, N. J., Malina, M., & Munzel, S. C. (2009). New flutes document the earliest musical tradition in southwestern Germany. *Nature*, 460, 737-740.
- Darwin, C. R. (1871). *The descent of man, and selection in relation to sex*. London: John Murray. Volume 1. 1st edition. (チャールズ・ダーウィン, 長谷川真理子 (訳) (2016). 人間の由来 (上・下). 講談社学術文庫.)
- エミール・ジャック = ダルクローズ著、板野平監修、山本昌男訳. (2013). 「リズムと音楽と教育」, 全音楽譜出版社, p.viii.
- 神原雅之. (2013). 「楽しみながらからだを動かす1～5歳のかんたんリトミック」, 株式会社ナツメ社, pp.16-19.
- 小林優香・今福理博. (2020). 1・2歳児のリトミックにおける模倣行動の縦断的变化. 日本赤ちゃん学会第20回学術集会, P1-04.
- 小西行郎・志村洋子・今川恭子・酒井康子編著. (2016). 「乳幼児の音楽表現」, 中央法規出版株式会社.
- 厚生労働省. (2017). 保育所保育指針.
- 文部科学省. (2017). 幼稚園教育要領.
- 文部科学省・厚生労働省. (2017). 幼保連携型認定こども園教育・保育要領.
- Over, H., & Carpenter, M. (2013). The social side of imitation. *Child Development Perspectives*, 7(1), 6-11.